

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792200418		
法人名	株式会社プラティア		
事業所名	グループホーム プラティア今里		
サービス種別	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市生野区新今里7-3-8		
自己評価作成日	令和元年6月13日	評価結果市町村受理日	令和1年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和元年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

次の5点をスローガンとして支援にあたっています。
 ①入居者が主人公:日常生活はご本人の意向を大切に、私たちは不自由なところを補うサポート役です。②尊厳を保つ:プライバシーを最大限に確保し、どのような状態になられても尊厳する人生の先輩として節度ある対応に努めます。③いきいきとした生活:日々の生活の中で役割を持つことにより、一人ひとりの可能性を引き出し、いきいきとした生活を送っていただきます。④認知症の進行の防止:趣味や外出、家事などをその人ができる範囲で行うことにより、認知症の進行を防止します。⑤地域社会と共に:地域に開かれた施設として、地域の皆様に支えられながら共に歩みます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目の新しい事業所であるが、法人の確立された運営体制による安定した運営が行われている。詳細なアセスメントをもとに個別具体的な介護計画を策定し、PDCAサイクルによる個別支援に取り組んでいる。各シーンを動画で分かりやすく学べるクリップライン研修の活用、人事考課制度、毎月のユニット会議の実施等により、職員の資質向上と連携を図っている。手作りの食事提供、週1回のフリー食、おやつレク、菜園での野菜づくり、「寄り添い介護」による個別外出支援等、利用者の希望を聞きながら、いきいきと生活できるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	者	第三	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
				実践状況			
I.理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で共通の理念を事業所の理念として実践しており、新人研修の際、理念を具体的なケアにどう繋げていくかを学習する。日々の共有、実践としてはICTの導入により、法人理念を可視化した教育を行っている。	法人共通の理念・基本方針・具体的な5点のスローガンを明文化し、その中に「地域社会と共に」という地域密着型サービスとしての意義を明示している。入職時の新人研修で理念を配布して説明を行い、クリップラインの研修にも採り入れて、共有と理解を図っている。カンファレンスや人事考課の自己評価・面談の際に振り返る機会を設け、理念の実践につなげるように取り組んでいる。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	内覧会にはたくさんの地域の方々に来ていただいた。自治会に加入しているものの地域とのお付き合いはこれから少しずつ。ご利用者の散歩の際、あいさつなど交わすことも多くなり事業所を認識してもらっている。行きつけの近隣喫茶店に入居後も定期的に行っている入居者もいらっしゃる。	開設2年目の事業所であり、内覧会の開催、自治会への加入、散歩時の挨拶など、地域に認識してもらえるように取り組んでいる。地域の喫茶店や商店の利用を継続し、利用者が地域とつながりを持って暮らせるように努めている。	今後も、より一層地域交流・地域貢献に取り組むことにより、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組まることが望まれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方からの認知症に対する質問（診断方法や介護認定の取得等）に回答できる範囲で助言を行っている。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設後開催実績なし。	運営推進会議の開催を行うに至っていない。	運営推進会議の開催要項に沿って、開催することが望まれる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や地域包括支援センターとは必要な報告を行ったり、運営上の助言を仰いだりしている。生活保護受給者の受け入れがある為、生活支援課の担当者とは連携をとっている。	運営上の助言を受け、また、適宜報告を行う等、市の介護保険課や地域包括支援センターと連携を図っている。困難事例への対応について相談し、助言を支援に反映した事例もある。生活保護受給者の受け入れも行っており、区的生活支援課の担当者と協働し支援に取り組んでいる。			

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修の際の項目に含めている。また、現任職員への研修も実施している。管理者は市の集団指導の際に学ぶ機会がある。玄関、非常階段は防犯上施錠しているが、EVやフロアの拘束的な施錠はない。今年度より、身体拘束等適正化委員会も実施している。	重要事項説明書に「身体拘束適正化」を明文化し、契約時に利用者・家族にも説明し、拘束を行わないケアを実践している。身体拘束等検討委員会を3か月に1回実施し、委員会の内容はカンファレンスと研修で職員に周知を図っている。出席できなかった職員には、議事録・研修資料の閲覧により周知を図っている。クリップラインを活用した研修でも、全職員が身体拘束について学ぶ機会を設けている。玄関の開錠には操作が必要であるが、エレベーター・階段の使用、建物内の移動は自由にでき、利用者が戸外に出たい意向があれば対応し、閉塞感がないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修の際の項目に含めている。また、現任職員への研修は、ICTツールを用いた動画研修を実施している。管理者は、市の集団指導の際に学ぶ機会がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者に関しては、それらの知識を備えるように努めているが、介護職員に関しては学ぶ機会を設けていない。その為、必要に応じてそれらの知識を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居問い合わせの時点から、ご本人やご家族にケアの方針、具体的な暮らしの形などを説明している。その上で、個々に持っている不安、疑問点等を伺い納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者がどう暮らしたいか希望に応えるよう意見を受け止めている。日々の生活の中で意見を伺うので、改めて機会を設けることはせずその都度の利用者の意見を反映している。生活の様子は、フロアで写真の掲示をしている。	利用者の要望は日々の会話の中から把握に努め、職員間で共有を図り支援に反映できるように取り組んでいる。家族の来訪時には、職員から近況を報告し、生活の様子の写真をフロアに掲示し、意見や要望を出しやすいように働きかけている。主に個人的な意見・要望であるため、迅速に個別対応できるように努めている。外出の要望については、寄り添い介護を活用して実施していく予定である。	

自己	者	第三	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
				実践状況			
11	(7)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内では、定期会議・日々の業務の中で管理者に率直に意見を言うように働きかけている。また、法人上部に対しても意見を反映させられるように、管理者を通じて運営に対する意見を伝えている。	月に1回ユニット毎にカンファレンスを実施し、業務に関する検討や利用者の情報共有・支援方法の検討などについて、職員が意見・提案を出し合って話し合い、管理者は必ず出席して把握している。日々の業務の中でも、また、人事考課の面談時にも、管理者は職員の意見・提案を個別に聴く機会を設けている。管理者がエリアマネジャーに報告し、エリアマネジャーが経営会議に出席し、職員の意見・提案を運営者に伝える仕組みもある。		
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入。各々の努力や実績、自身の目標の達成度、頑張りに応じて賞与に反映されるようにしている。それにより、更に向上心を持って働けるよう環境を整えている。年に1回法人全体で5名程度表彰している。			
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者や必要な職員には、費用を会社負担にするなど外部研修への参加しやすい環境を整えている。内部的には勉強会を実施し、内外共に学習の機会を確保をしている。			
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や交流会・区の連絡会に参加した際の情報を共有し、サービスの質の向上に努め、ビジネスチャンスの情報を共有している。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時から施設への見学を勧め、方針について説明し質問を受け一方で、ご本人への訪問を行いじっくりお話を聞かせて頂き、ご質問にも答えた上で入居申し込みをして頂いている。			
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の過程の中で、ご家族にも、お話を伺う一方で、ご本人の前では話しにくいことを配慮し別の時間を設定して面談したり、電話での相談に応じたり、家族の気持ちを受け止めるようにしている。			

グループホーム プラティア今里

自己 者 第 三	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までの待機時も定期的に連絡し、様子を伺い相談も受けている。ご家族・関係者と相談しながらアセスメントを作成しケアに努めている。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が生活の主体者であり、介護職員と一緒に生活をさせて頂くパートナーとして関わりを持っている。入居希望時より築いてきたご利用者との信頼関係が現在のケアを支えている。			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居に至るまでの経緯と事情があることを鑑み、其々の関係が作り上げられることに留意している。自由にご利用者へ訪問できるよう配慮し、ご利用者とご家族との時間を大切にしている。			
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に対し、状態の報告や、認知症への理解の説明などを行い、ご本人が納得できる馴染みの関係作りの援助を行っている。馴染みの方の訪問も受けている。	入居時に把握した馴染みの人や場所についての情報は、フェイスシートやアセスメントシートに記録し、入居後に把握した内容は追記して共有する仕組みがある。家族・友人・知人・教え子等の来訪があり、また、馴染みの喫茶店への利用など、馴染みの関係が継続ができるように支援に努めている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	通常の近所付き合いのように、仲のよい人もいれば、疎遠な人もいるのが自然な姿だと考えている。そういった個々の人間関係を大切にしつつ、孤立しないよう職員が配慮をしている。			
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後は必要に応じてご家族の介護についての相談に応じている。また、ご家族から他の方を紹介頂くこともあり、ご相談を受けることもある。			

自己 第 三	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に介護に対する要望や、終末期、医療に対する要望を伺い、日々のケアに反映させている。意志疎通が困難な方に対しても、ご家族からの情報で、過去の生活歴や性格、趣味嗜好を伺い、ケアに反映させている。	入居時に把握した思いや意向はアセスメントシートに記録し、入居後日々の関わりの中で把握できた思いや意向は個別の介護記録に記録し、再アセスメント時には追記し、支援や対応に反映できるように努めている。自ら思いや意向を表すことが困難な利用者については、表情や反応から汲み取ったり、家族や関係者からの情報から把握するように努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記のとおり。その他にも食の好や、拘りの物、好みの服装や信仰宗教なども伺い、ケアに反映させている。また、入居に至る経緯から、必要なケアを立案している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムを大切にしている。また、職員との信頼関係を作り、有する力を発揮できる配慮をし、職員が現状把握を行っている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中でニーズの把握を行い、ご家族や関係者のニーズや主治医の情報も把握し、ADL面QOL面の計画を作成している。検討の場としては、毎月1回の各フロア毎のカンファレンスの実施。議事録の作成。またモニタリング表の作成も行っている。	フェイスシートとアセスメントシートで情報収集・課題抽出を行い、介護計画を策定している。日々の支援内容や利用者の様子を個別の「介護日誌」に記録している。毎月のカンファレンス時に、利用者個々の状況の共有と支援方法の検討を行っている。定期的には概ね6か月に1回の介護計画の見直しを実施している。見直しの際にはモニタリングと再アセスメントを行っている。アセスメントシートは、利用者個々のADL・IADL・QOL・認知症状・リスクなどを詳細に把握でき、個別具体的な計画策定につなげる書式となっている。また、計画見直しに際しての利用者・家族の要望も記録できる書式である。	介護計画見直し時のカンファレンスは、その位置づけを明確にすることが望まれる。かかりつけ医など関係者の意見も、カンファレンス記録などに記録してはどうか。介護計画に基づいたサービスの実施が明確になる記録の工夫が望まれる。

グループホーム プラティア今里

自己 者 第 三	項 目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者のニーズに変化があったとき、様子に変化があったとき等、見直しを随時行っている。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化するご利用者やご家族の状況に、職員の体制、環境の準備等、臨機応変に対応している。職員の都合で要望に答えないことはせず、豊かな発想で対応するようにしている。			
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	若年性認知症の家族に、若年性認知症の家族会の紹介を行い、家族の理解や不安軽減ができる様、サポートを行っている。今後、地域交流のカフェの利用等を考えている。			
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの訪問診療以外にも、希望する医療機関へ個別に受診をしている。また、必要があればご家族の同席もお願いしている。ご本人、ご家族の医療ニーズも医療機関へ伝えている。	アセスメントシートで入居前からのかかりつけ医を確認するとともに、入居後の希望についても確認し、個々の希望に応じた受診ができるように支援している。協力医療機関からの訪問診療が受けられる体制がある。専門医などの受診を勧められた場合は、家族による受診同行を基本としているが、状況に応じて事業所としても支援している。医療連携体制を整えており、看護師の訪問で健康管理を行い、看護師から医師に連絡・報告があり連携している。訪問診療や通院の結果や指示は、業務日誌の特記事項欄に記載し情報共有を図っている。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制に基づき、報告、相談し、往診前には書面にてご利用者の情報を伝え、適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者の状況、注意点等を事前に病院に伝え入院生活の安定を図り、入院中はお見舞いに行き、生活の援助・ご利用者の精神的安定の援助を行い、早期退院に努めている。			

自己	者	第三	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
				実践状況			
33	(12)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には医療対応、終末期対応指針を説明している。また、早い段階からご本人、ご家族、医師を含め話し合いを行い十分に説明しながら方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期に向けた事業所の方針を、医療対応・終末期対応指針をもと説明し、同意を得ている。利用者・家族の意向については、アセスメントシートの「医療やターミナルへのお願い」欄に記録し、再アセスメントの際に定期的に意向確認している。現在は重度化・終末期の事例はないが、希望があれば事業所で対応できる範囲を説明し、理解を得た上で関係者と連携を図り看取り介護を行う方針である。		
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護職員の力量ごとに勉強会を通じて、実践力を身に付けるように配慮している。また、医療連携体制に基づき、緊急時の24時間オンコール体制を敷いている。			
35	(13)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成している。地域での協力体制との協力体制は今後の課題。現在、法人全体として非常食や災害用品の整備をしている。	法人の防災マニュアルが整備されており、事業所としても事業所の詳細を盛り込み策定している。開設後、訓練実施に至っていないが、今年度は年2回の実施を予定しており、その際に災害訓練も実施する予定である。非常食や災害用品の備蓄は法人全体で整備し、水や食料については各事業所でも整備している。	火災や地震等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるように、年2回以上の訓練の実施と、地域との協力体制を築くことが望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室は、必ずご本人の許可を得て基本はご利用者と共に入室するなど、ご利用者の人格や尊厳について新人研修時やICTを用いて理解させ、日々のケアでも、職員同士で注意し合っている。	居室への訪室時のマナー、コミュニケーション時の言葉かけ、ケア時のプライバシーや羞恥心への配慮等、各シーンを動画で分かりやすく学べるクリップライン研修を活用して、尊厳やプライバシー保護について職員に周知を図っている。気になる言葉かけや対応については、管理者層が注意喚起を行っている。個人情報に関する書類などは、各ユニットの鍵のかかる書庫で保管している。写真や映像の使用については、用途別に書面で意向確認を行う仕組み作りを、法人として整備中である。		

グループホーム プラティア今里

自己 者 第 三	項 目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望には応えるよう配慮する。希望時にすぐ対応が出来ない場合は、代替案と一緒に考えている。職員との信頼関係を築くことで、自ら希望を言いにくいご利用者にも自分のペースで暮らせるよう援助している。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の個々のペースを尊重している。食事、入浴、外出等もご本人の希望した形で行えるよう個々に対応している。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の定期訪問を取り入れている。また、入居段階からおしゃれは好みの服装も伺っている。日中にパジャマのままで過ごすことが無いようにも支援している。			
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に好んで食べて頂ける物を提供している。皆と食卓を囲むのが楽しいと感じる方もいれば、一人で食べる方もいる。準備・片付けを積極的にする方もいる。	昼食・夕食は、委託業者から献立と食材の搬入を受け、各ユニットで調理し、手作りの食事を提供している。朝食は、職員が献立・調理に対応している。毎週火曜日の夕食をフリー食とし、利用者の希望や季節感をとり入れた献立を立て、利用者も適宜参加して買い物・調理を行っている。行事の際は業者の搬入を止め、行事に応じた食事を各ユニットで企画し提供している。誕生日には、利用者の好みの献立を聞いて提供している。毎月数回、おやつレクを企画し、利用者も作業にわり楽しめる機会を設けている。職員も同じ食事でテーブルを囲み、家庭的な食事風景を大切にしている。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量を、食指が動くような盛り付けや食事形態を取り入れ、その日の体調や気候を考慮しながら食事・水分を摂って頂いている。栄養バランスについては、メニューに沿ってバランスの偏りの無い様な体制になっている。食事制限の指示のあるご利用者は、家族や医療機関と連携を取り行っている。			

グループホーム プラティア今里

自己 者 第 三	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の自立度、希望、口腔の状態に合わせ対応している。訪問歯科の受け入れもしている。義歯の洗浄等に援助が必要な場合は、ご本人・ご家族と相談の上、毎食後に支援を行っている。			
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の状態に合わせ、尿意、便意、習慣、パターンを考慮し個々に対応している。排泄の様子に変化のある場合など、様子観察を行い、要因の把握に努めている。尊厳を大切に考えた声かけも行っている。		排泄チェック表で、全利用者について排泄状況の把握に努めている。排泄が自立している利用者も多いが、できる範囲で記録し把握に努めている。支援が必要な利用者については、排泄パターンを把握し、早めの誘導でトイレでの排泄、排泄用品の使用の軽減に取り組んでいる。誘導時の声かけや介助時の待機など、羞恥心の配慮について周知を図っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者ごとに、排泄リズムを把握し、滞便の際の対応を行っている。また、食事以外での水分補給や体操の時間を設け、予防に取り組んでいる。			
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	AM/PMと一名の職員が入浴業務に専従し、入浴機会を多く設けられるように配慮している。1名あたり平均週に3回ペース。		週3回の入浴を基本とし、状況に応じて適宜入浴回数を増やすようにしている。利用者毎に更湯にし、個別の希望やスケジュールに合わせて、ゆっくりと入浴が楽しめるように、午前・午後に入浴業務専従の職員を配置している。入浴時の個別の配慮については、介護計画にも取り入れて対応している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間は決めず、ご本人が希望する生活リズムをその時々状況に合わせて、配慮している。体調その他に変化のあるときは、ご本人と相談の上、休息や、就寝をとることを勧める。			

グループホーム プラティア今里

自己	者	第三	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
				実践状況			
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、留意点等、理解に努めている。注意事項については申し送りにて全職員で情報の共有を行っている。服薬変更時には必要に応じて、体調チェック表にて様子を記録し、変化の確認を行っている。			
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が生活リズムを決めてゆけるよう、入居前に生活歴や楽しみごとを聞かせて頂く。希望を言われる方にはその楽しみを、希望を言われない方には職員の働きかけにより提供している。			
49	(18)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行く、買物に行く等個々にグループで対応している。また、日頃のニーズを汲み取った上で個別に行う「寄り添い介護」の実施も行っている。	利用者の希望や天候に応じて、近隣や公園への散歩、買い物、事業所の菜園での水やりなど、外気に触れ気分転換できるように取り組んでいる。誕生日の外出や少し遠出の外出については、家族の了承と協力を得ながら、「寄り添い介護」を活用して取り組んでいく予定である。		
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族、ご本人と相談し、金銭の管理方法を決めている。(施設管理、一部ご本人管理等)その後も、その都度の状態の変化に応じて、対応方法を相談している。			
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかかけられるよう体制を調べている。希望があれば、手紙等のやりとりの援助も行っている。			

グループホーム プラティア今里

自己 者 第三	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、家庭的なレイアウトを心がけ、落ち着ける空間作りを目指している。自分の家のように、自由に行動できる空間への工夫も行っている。		各ユニットの共用空間は、季節の花や七夕飾り等季節感のある装飾により、季節感を大切にしている。キッチンからの調理の音・匂いや家事参加等により、利用者が生活感を感じられるように取り組んでいる。各ユニットの利用者の状況に応じてテーブル席やソファの配置を工夫し、利用者がくつろいで過ごせるように配慮している。エレベーターを使用して、ユニット間を自由に行き来することも、また、事業所の菜園に出ることもでき、気分転換が図れる環境となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのご利用者の落ち着ける場所の把握をしている。その都度のご利用者の様子に合わせた模様替えをし、落ち着ける空間作りに配慮している。			
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものを持ってきていただくように依頼し、個々のご利用者に合わせてレイアウトとなっている。		居室にはクロゼットが設置され、その他の家具や道具は、家族の協力を得て、使い慣れた馴染みのものの持ち込みを勧めている。ベッド・寝具も持ち込まれ、生活習慣や安全性から布団を使用している利用者もある。利用者の状況の変化に応じて、レイアウトの変更を行っている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態にあわせた対応を行っている。例えば、居室でのポータブルトイレの設置、レイアウトの変更もご本人との相談の上で工夫し、共有部分を使う際には職員が付添をしている。			